



おかげさまで  
タクシー生誕100周年

# タクシー生誕100周年！ きょう8月5日は「タクシーの日」

## タクシーの100年を振り返って

大正元年に初めて東京でタクシーの運行が開始され、ちょうど100年になります。当初は初乗りが、1マイル(約1.6km)60銭。ちなみに、盛りそばが1杯3銭だったそうですから20杯分。非常に高価な乗り物でした。その2年後に第一次世界大戦が始まりました。国内の好景気を受け、タクシーは高い乗り物だったにもかかわらず、飛躍的に波に乗ることができました。大正12年に関東大震災が起き、関東の公共交通網は壊滅的な打撃を受けましたがタクシーは、いち早く個別輸送の機能を発揮し、脚光を浴びました。大震災という不幸なできごとでしたがタクシーだけではなく、車の機能が見直され、国民的な乗り物として定着しました。

昭和5(1930)年から昭和恐慌が始まり、タクシーの需要は減りました。

だが、失業者対策の受け皿として大量に増車しました。第二次世界大戦の終戦(昭和20年)まで、ガソリン不足などの多くの苦難を乗り越えてきました。

大阪万博(昭和45年)の頃までは、都市部の人口が急増し、地下鉄や交通のインフラが整備されていない中で、右肩上がりでしたがこの頃を頂点にインフラの整備が進み、マイカーブームもあって、タクシー離れが始まりました。売り上げは減少し、乗務員の高齢化、乗務員のマナーなど、悪いイメージが前面に出てしまいました。今でも、お客さまが「近いんですけど」と乗車してこられますが、例えば、コンビニ等でおにぎりを1つだけ買って、「少ないんですけど」とは言いませんよね?当時、ワンメーターを喜ばなかったのは事実なんです。

100年を節目として、これからのタクシーは、どうあるべきかが問われているのです。

## 多様化するタクシーとサービス

国は平成18(2006)年に「タクシーサービスの将来ビジョン」小委員会を立ち上げました。①専門コンシェルジュ②地域密着型生活支援サービス③地域社会の安全・安心貢献④日本の顔・地域の顔⑤移動制約者等の移動手段という5つの提言を行っています。タクシーの進むべき方向は、ここに集約されていると思います。

お客さまを運ぶだけが仕事ではなく、多面的なサービスを積極的に提供することで、マイカーや他の輸送機関に対



タクシーの100年について語る道野 隆さん  
=大阪中央区

応できない新たな需要を獲得することが、今後の鍵を握ると考えます。

大阪では約40年前から車いすのまま利用できる「福祉タクシー」の運行が始まりました。これは全国で例がなかったことです。近年では、一定の研修を受けた乗務員が、3歳以上のお子さんの送り迎えをする「子育てタクシー」も全国的に広がっています。

また、「お手伝いタクシー」「便利屋タクシー」と言いまして、例えば、買い物をしたお客さまの荷物を届ける、お客さまの代わりに病院へ診察券を出しに行くなど、規制緩和を積極的に活用することで、新たなサービスも生まれています。過疎地域では、廃止された路線バスの代替交通機関として「乗合タクシー」が活躍しています。

さらに「観光タクシー」もあります。また大阪では観光客の多さを生かし切れていませんが、京都ではジャンボタクシーで修学旅行生が移動し、ホテルのプランにタクシーチケットを付けるなどの取り組みが進んでいます。

## 変化を遂げるタクシーの未来とは

タクシーの利用形態も変わりつつあります。大阪タクシーセンターの調べでは、タクシーの利用時間帯で最も多いのが、午前8時から午前10時です。以前は終電後、夜の乗り物というイメージでしたが、最近では、病院や買い物などの足として、女性や老人にも気軽に使ってもらいやすい乗り物になりつつあると言えます。

大阪タクシー協会としては、「タクシーの日」のキャンペーンだけではなく、タクシー自身が交通安全の模範にならなければならぬと、春と秋の交通安全全週間に街頭キャンペーンを実施しています。年末には「飲酒運転根絶」と同時に「お帰りはタクシーで」というキャンペーンも行いました。

特に取り組まなければならない課題は、やはり違法駐車です。関係当局とは別に、業界が自主的に、違法客待ちへの指導を展開しているところです。環境対策という点では、タクシーの9割がLPガス車ですから、クリーンエ

ネルギーの自動車なんです。同時に電気自動車(EVタクシー)も大阪府内で50台、稼働中です。これからはEVタクシーやハイブリッド車両の導入もはかっている、低炭素社会へ貢献しようとしています。

タクシーというのは、お客さまを運ぶだけが仕事ではありません。多くのドラマや物語にもなったように、乗務員から何げない言葉で励まされたという電話や手紙をいただいたりすることもよくあります。会話を楽しみながら乗車される方も多く、バスや電車にはない独特の味わい、空間を提供する場でもあると思います。

多面的なサービスという意味では、乗務員には、お客さまの視点に立ち、人生を支える仕事と考えてほしいです。目的意識を持ち、創意工夫をしている乗務員は確実に売り上げが上がっています。永年勤続40年以上の乗務員もおります。未来のタクシーをひと一言で言うなら、「街の中、人々の暮らしの中で生き続けていく存在だと信じてお